

# 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1290100013
法人名	社会福祉法人 友和会
事業所名	ピアポート千寿苑
所在地	〒260-0025千葉県千葉市中央区間屋町6-4 (電話) 043-204-8400
評価機関名	非営利特定活動法人 ACOBA
所在地	〒270-1151千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成20年3月29日

## 【情報提供票より】 (平成20年3月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤7人, 非常勤6人, 常勤換算8.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 併設型
	6 階建ての 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	光熱水20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要 (3月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	7	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三愛蘇我病院 轟クリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当施設は法人が経営する特別養護老人施設を始め、多くの施設が入居する6階建てビルの2階部分にある。都心にありながら、広々と作られ、外光が多く取り入れられるなど、理念どおり「ゆったりと楽しく、その人らしく・・・」を願った造りになっている。利用者家族アンケートではこの工夫されたつくり、清潔なホームへの喜びと安心の声が多くある。  
当法人トップは千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会を立ち上げ、現在その会長を務めるなど千葉県・千葉市におけるリーダーの一人である。当法人はピアポート千寿苑を始めグループ全体が一丸となり、利用者の安心・安全を第一として、地域に密着した福祉サービスに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価報告書での主な改善課題には全職員で閲覧しており、又職員会議ではそのテーマについて改善を検討している。検討した事項は順次サービスに反映させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は最初にユニットリーダーと係長の下で作成、続いて計画作成担当者が検討、最終的に統括施設長の下で作成された。現場におけるそれぞれの課題が整理されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の構成メンバーは利用者家族、地域住民、民生委員、施設代表のおよそ12名である。平成19年度は4回の開催である。会議の内容は外部評価の報告、ケアサービス・生活支援・運営体制、地域サポート体制等で、その結果をサービス向上に反映させている。18年度に立ち上げた千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会では、市の担当職員を招いての研修会や千葉市の出前講座の開催などを行い連携をとっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各ユニット毎に提案箱を設置して利用者家族の意見を反映させるとともに、年数回の行事の後や、運営会議で意見交換を行っている。出された意見で取り組み可能なものは随時、サービスの向上に結び付けている。今回のアンケート結果は、遠まわしながらいろいろな家族意見を感じる。貴重な意見として管理者、職員心合わせてさらなる取り組みを深められたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人施設2階にある地域交流室を地元自治会・子ども会などに開放したり、講談などの催事企画を行い、利用者と地域の人々が一緒に楽しんだり交流が出来るようにしている。又、認知症ケア連続研修なども開放し、地域住民に参加を呼びかけている。今年は特に地域との交流に力を入れるという方針があり、徐々に取り組みが始まっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームの運営理念は「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しくその人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」である。都市型のグループホームということでその特徴を活かしながら、ゆっくりとした暮らしをサポートしようとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は交流室や各ユニットに掲示し、職員がいつでも目を通し共有できるようにしている。理念の実践については、職員会議でも話し合いを行い徹底を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流室を地元自治会、子ども会などに開放したり、講談などの催事企画を行い、利用者と地域の人々が一緒に楽しんだり交流が出来るようにしている。又、認知症ケア連続研修なども開放し、地域住民に参加を呼びかけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価報告書の内容を通じ、その都度実践を振り返り、ミーティングを通じて事業計画等に反映している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年度は4回の運営推進会議を行った。会議の構成メンバーは利用者家族、地域住民、民生委員、施設代表のおよそ12名である。討議の内容は外部評価の報告、ケアサービス・生活支援・運営体制、地域サポート体制などについてであり、その結果をサービス向上に反映させている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月行っている千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会3月例会には千葉県担当職員に来てもらい、平成20年度の事業計画や21年以降の施策などについて説明をお願いした。又、千葉市の出前講座をしてもらうなど随時にきめ細かな連携がある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との信頼関係を第一と考え、担当職員が利用者の状況を1日1行のコメント式で書いた1ヶ月分の「お便り」と「翌月の予定」などを請求書に同封し、毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに設置した提案箱から上がる、利用者家族の意見を反映させるとともに、年数回の行事の後や、運営推進会議で意見交換を行っている。出された意見で取り組み可能なものは随時、サービスの向上に結び付けている。	○	提案箱や運営推進会議、家族会などの組織を通じて多くの意見を集めている。利用者からは様々な個別意見があり、職員一人ひとりが利用者の心を捉え、その思いを実現させてあげられるよう、更なる取組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はユニットに限定するようにして、なじみの関係作りが出来るよう努力している。もし異動があった場合は月1回のお便りで家族に知らせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度が導入され、全職員が管理者に自己評価を提出している。人材育成面では研修委員会を設置し、内部・外部の研修機会を選定している。研修は時間内受講や交通費支給、手当支給など非常に手厚い。福利厚生面では、社保・共助会加入、年2回の健診など職員育成に力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人が率先して千葉市におけるグループホームのメンバーと連絡会を立ち上げた。連絡会では全体交流会を始め、毎月1回研修会を開催し、メンバー相互で質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	試しに宿泊したり、何度か遊びに来てから正式に入居に至るなど、安心して過ごして頂けるように、サービスを開始している。利用者本人の能力や個性を尊重しながら、年齢や性格の気の合いそうな方と食事の席を近くにしたり、他の利用者と過ごす機会を設け、職員も間に入って話題づくりをしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	テーブル拭きや片付けなど利用者の出来ること出来るようなことは一緒に行うなどして、利用者と同じ立場で生活出来るように意識しながらコミュニケーションに努め、家事や生活の援助を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活歴や生活習慣を入居前に家族に記入してもらったり、入居後も家族から聞き取りを行い、理解を深めている。さらに本人の思いを様々な生活の場面で聞き取り、把握に努めている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成に当たっては、担当者会議で意見を出し合い、参加出来ない職員については個別に意見を聴取し、より良い暮らしのための介護計画を作成している。4月からセンター方式に変更する予定である。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な介護計画の見直しは6ヶ月毎に更新している。一時、定期的な介護計画の見直しのみになっていたが、現在は計画作成担当者を中心にカンファレンスを開催しており、利用者の状況に応じて介護計画の見直しを行なっている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>1階のデイサービスを利用し、いつもと違う顔ぶれとのふれあいや、併設特養の医務室で健康相談を受けてもらうなど、柔軟な支援をしている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待し たい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する掛かりつけ医への通院や受診が出来るよう支援している。また毎週2回併設特養の主治医の轟医師が往診に見えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度にお一人の方を看取っている。重度化や終末期を迎えたときは、家族と十分な話し合いのもと、本人の隣に泊まってもらうなど協力を得るとともに、医師・職員の連携の下に、安らかにお送り出来るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	排泄介助は他者の前では行わない、家族面会等も居室で話ができるように支援している。記録は利用者前で記載することもあるが、扱いには十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの個性や主張を大切に、自由な暮らしが出来るよう本人のペース（朝はゆっくりしたいなど）に合わせて、希望にそった支援が出来るように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事環境作りを心がけ、職員も一緒に食事をしたり、出来る方は後片付けを一緒に行うなどしている。利用者の状況によっては、食事時間をずらして食事をすることも行っている。	○	一緒に生活をしている中で、食事は最も大切な満足感の醸成とコミュニケーション作りの機会である。職員が一緒になり、より一層の明るく楽しい食事の時間空間を作り上げられたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回以上行っている。9:30~16:00の時間帯の中で、希望を聞きながら入浴出来るように支援している。入浴の意思を示さない方にも、声をかけて入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	陶芸やカラオケ教室、或いはホームの掃き掃除を手伝ってくれる掃除の好きな方など、利用者の能力・趣味に合わせた生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺は交通量が多いため、職員が必ず付き添うなど安全が確保できないと難しく、戸外への外出支援は充分ではない。施設のガラス張りの談話コーナーは広く長いスペースがあり、利用者が自由に行き来でき、室内散歩が楽しめる。	○	交通量の多い都心に立地するグループホームなので、気軽に外出できる環境下ではないが利用者はより多くの外出を望んでいる。20年度は外出支援で色々な方策が計画されており、その確実な実行が期待される。
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は居室の鍵をかけず、ドアを開けたままで開放的である。無断で外出する利用者のための職員の見守りが十分でない時のみ、玄関を施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に併設特養と共同で避難訓練を行っている。年1回、消防署が来て協力を得られる体制づくりを行っている。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量にムラがある時はチェック表を作成し、食事の形態や内容など工夫している。またその際の体調や精神状態など原因の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に掲示物を変えたり、毎日心地よい音楽を流したり、遮光にはカーテンで対応するなど居心地良く過ごせる工夫をしている。廊下の展示コーナーには、施設全体のコンクールで1等賞に輝いた作品が展示されるなど利用者のやる気の引き出しも兼ねている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの小物や写真・家具など使い慣れたものを置き、居心地良く過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。